

人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業  
東ユーラシア研究プロジェクト（EES）2023 年度全体集会実施要項

0. 開催までの予定

- 各拠点の開催担当（問い合わせ先）  
赤尾光春（民博拠点） royterek@minpaku.ac.jp  
井上岳彦（北大拠点） inouetkhk@slav.hokudai.ac.jp  
志宝ありむとふて（東北大拠点） alimu.tuoheti.b3@tohoku.ac.jp  
富田敬大（神戸大拠点） tomitaka@people.kobe-u.ac.jp
- 11 月末までに「全体集会」および「若手研究者集会」のプログラムを確定する。
  - －（全体集会）セッション 2（東北大・発表タイトル、趣旨文）
    - ・セッション 2 の報告者に「発表タイトル」と「要旨（400 字程度）」を依頼
    - ・趣旨文（2～3 行）を赤尾が作成（拠点研究員で検討・決定）
  - －（若手研究者集会）報告者（発表タイトル）、コメンテーター
    - ・11 月末までに発表者（発表タイトル、仮で可）とコメンテーターを決定
- 12 月半ばまでに EES 全メンバーに全体集会および若手研究者集会の参加可否・懇親会への出欠を確認し、まとめる（各拠点→神戸拠点）
- 年明けに最終版の実施要項を EES メンバーに送付
- 全体集会の一週間前までにセッション 2 の各発表者はコメンテーター（今村・山形大）に発表原稿を送付（各拠点から依頼）
- 拠点長会議は、1 月 20 日（土）の午前中（10:30～11:30）に実施予定

1. 全体集会目的

人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業・東ユーラシア研究プロジェクト全体および各拠点の目的と計画・成果について情報共有・意見交換を行い、今後の相互交流や成果発信のあり方について議論を行う。また、東ユーラシア諸地域を研究対象とする若手研究者の研究活動を支援するために、若手研究者集会をあわせて実施する。

2. 日程

2023 年 1 月 20 日 (土) 13 時から 17 時 30 分 全体集会  
1 月 21 日 (日) 10 時から 13 時 30 分 若手研究者集会

### 3. 開催形式

開催方式：対面とオンラインの併用

・対面会場：神戸大学国際文化科学研究科 E 棟 4 階大会議室

アクセス・マップ：<https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/turukabuto-dai1.html>

※E 棟は上の URL キャンパスマップの 23 番です。

・オンライン会場：Zoom 会議室

### 4. 参加対象者

EES 所属全体メンバー（研究協力者を含む）＋希望者（各拠点長の要許可）

※参加のための旅費（若手研究者集会の報告者含む）は各拠点で負担

### 5. プログラム

※今後変更する可能性あり

#### 【全体集会】

開会あいさつ (13:00～13:05)

#### □第 1 部

(1) 基調講演（発表 20 分） (13:10～13:30)

東アジアからみる少子高齢化—21 世紀の「ウェルビーイング」を考える（仮）

岡田浩樹（神戸大学）

(2) セッション 1 EES 神戸大学拠点パネル

● 個別テーマの概要と紹介（司会：冨田＋全コーディネーター） (13:35～13:45)

● 個別テーマの研究内容と取り組み

発表 1 住まいとライフスタイル (13:50～14:05)

野上恵美（武庫川女子大）

発表 2 人口減社会における越境・家族・国家 (14:10～14:25)

上水流久彦（県立広島大）

質疑応答 (14:25～14:45)

（休憩 15 分）

## □第2部

### (3) セッション2 EES 拠点間合同パネル

共通テーマ：災害・紛争がもたらすコンフリクトとウェルビーイング

本セッションでは、戦争や災害の影響を直接的に被った難民と被災者が置かれた困難の諸相に光を当て、当事者たちの声の聞き取り調査を通して見えてくる諸問題（ホスト国の受け入れ態勢と政策、当事者および支援者のニーズ、当事者のトラウマとケア、当事者の社会的立場とアイデンティティ）を通して、難民と被災者のウェルビーイングを確保するにあたって何が課題であり、何が必要とされているのかを、インドネシアの防災時における障害者、本国ロシアでの兵役を逃れて中央アジア諸国に移住したタタール人、米軍の撤退時に日本に避難したアフガニスタン人という三つの事例を通して考察する。

#### 発表者

- 東北大拠点 (15:00～15:20)  
災害時におけるマイノリティグループの一つである障害者の脆弱性の研究について  
ボレー ペンメレン セバスチャン（東北大学）

本発表は、インドネシアでの文化人類学の発表予備的調査の「災害時における障害者の脆弱性の研究」について報告する。災害がマイノリティグループの一つである障害者には特に大きい影響がある。障害がある人たち、社会的規範から相対的に逸脱しているため、障害者やその他のマイノリティの人たちが抱える典型的問題（身体的避難、情報へのアクセス、防災教育、依存、偏見など）に直面しやすい。それに対しては、世界中に災害リスク減少政策に認知障害者を含む動きが少しずつ生まれている。2015年UNSDGは国連総会で「誰一人取り残さない」というスローガンを掲げ、それに基づいて多くの国で社会の不平等と脆弱性を減らす努力がなされている。それに対しては、本研究はインドネシアでの障害者および彼らの支援者からのニーズを把握することと、認知障害者たちの災害リスク災害研究への参加機会を増やすことを目指す。さらに、インクルーシブな防災対策だけでなく、インクルーシブな調査方法・活動を開発する必要性についても議論する。

- 民博拠点 (15:25～15:45)  
戦争、移動、変容——中央アジアで「タタールになる」人々の語りの事例から  
櫻間瑞希（中央学院大学）

ロシア政府によるウクライナ軍事侵攻が始まって以降、少なからぬロシア国民が近隣諸国へと移動している。なかには、ロシア国民であることと、少数民族であることの

狭間で、移住先で自身の新たなありかたを模索する移住者もいる。本報告では、ロシアから中央アジア諸国に移動したタタール人への聞き取りと、現地タタール組織における参与観察を手がかりに、かれらがどのような経緯から自身のタタールらしさを強く意識するようになり、何を自身のタタールらしさのよりどころとしているのかを検討する。

● 北大拠点 (15:50～16:10)

アフガニスタン人が難民になるまで

小川玲子（千葉大学）

2021年8月15日、アフガニスタンにおけるアメリカ軍の撤退期限を前に、イスラム主義勢力タリバーンがカブールを制圧し、「迫害の恐れがある十分に理由のある恐怖」（難民条約）は現実のものとなった。政変後、日本とつながりがあるアフガニスタン人も数百名が退避してきており、すでに200名以上が難民認定されている。本報告は政変によって人生を翻弄されたアフガニスタン人の多様な経験と実践を通じ、日本の国境管理の人種化及び難民の定着の課題について明らかにすることを目的とする。特に難民認定された日本政府関係者については定着支援が不十分であったことから貧困と低学歴の連鎖に陥っており、難民政策の課題が浮き彫りになっている。政府は移民の受け入れを拡大しているが、移民と難民を外形的に区別することは困難であり、社会の一員として安心して生活できるようになるための政策が求められている。

コメント

● 神戸大拠点 (16:15～16:25)

今村真央（山形大学）

質疑応答 (16:25～16:45)

□意見交換会（16:45～17:30）

□懇親会@神戸大学学内（18:00～20:00）

総合司会：志宝ありむとふて

セッション1司会：富田敬大

セッション2司会：赤尾光春

【若手研究者集会】

(1) 開会あいさつ (10:00～10:05)

EES 統括拠点・東北大拠点：高倉浩樹

(2) 若手研究者による発表

発表 1

(10:10~10:30)

陳情書という文化—ポスト・ソビエト時代の情報ネットワークとロシアの先住民族の社会運動の歴史的関係

是澤櫻子（東北大学大学院環境科学研究科、国立アイヌ民族博物館アソシエイトフェロー）

本稿の目的は、陳情書という手紙資料の分析を通して、ロシアの先住民族の社会運動において企業や行政と交渉するための知識がどのように共有されてきたのかを明らかにし、先住民族の社会運動と情報支援の関係について考察することである。従来のロシアの先住民族研究は、先住民族の権利を保障するための既存の法律の理念と実態が乖離しており、その差を埋めるために先住民族集団が交渉相手である企業や行政の言説を熟知して交渉の糸口を探る必要に迫られるという不均衡な力関係があることを明らかにしてきた。これらの交渉のための知識は、どのような媒体で、どのような集団を経由して継承されているのだろうか。本稿は、ロシア独自の社会問題を訴える手段である陳情書に注目する。特に陳情書における仲介者としての先住民族組織の意義に注目し、彼らが各地の先住民族コミュニティの言葉を言い換え、企業や行政に対して法律用語を多用して交渉を行う「法律の翻訳者」であったことを示す。

コメントと質疑応答

(10:30~10:55)

赤尾光春（国立民族学博物館）

● 発表 2

(11:00~11:20)

トランスナショナルな実践とアイデンティティ:中朝国境における「ポッターチャンサ」の多元的生活実践の意味(仮)

朴欽（東北大学東北アジア研究センター専門研究員）

コメントと質疑応答

(11:20~11:45)

下條尚志（神戸大学）

● 発表 3

(11:50~12:10)

Indonesian Technical Intern Training Program (TITP) Care Workers in Japan: Struggles due to the Relative Deprivation

Fitria Noriza（千葉大学人文公共学府博士前期課程）

コメントと質疑応答 (12:10～12:35)  
池 炫周 直美 (北海道大学)

● 発表 4 (12:40～13:00)  
日本の村落社会における空き家を維持する人々のモラリティに関する研究  
土取俊輝 (神戸大学大学院国際文化学研究科)

コメントと質疑応答 (13:00～13:25)  
尾崎孝宏 (鹿児島大学)

(3) 閉会あいさつ (13:25～13:30)  
EES 神戸大拠点：岡田浩樹

総合司会：井上岳彦

※発表 20 分+コメント 10 分+質疑 15 分

※各発表者は、コメンテーターに一週間前までに発表資料を送付すること

#### 6. 参加費・懇親会費などについて

- 参加費なし
- 懇親会（飲み物と軽食を用意する予定）の費用はまた別途ご案内いたします。
- 宿泊については参加者ご自身で手配ください（各拠点）

#### 7. その他

- オンライン参加者、Zoom ミーティング参加のための情報配信などにつきましては、詳細はまた別途ご案内いたします。